

ASUNARO

～周りがやらないことをやってみる大切さ～

明日への希望

広島大学大学院医系科学研究科運動器超音波医学准教授 中島 祐子 (1998年卒)

整形外科医になって10年が経つ頃、同級生たちは様々な手術経験を積み、私の遙か先を歩いていた。その頃私は3人の息子の育児に追われ、幸せといえば幸せだが、「整形外科専門医です」とは恥ずかしくかき言えなかった。「こんなはずじゃなかった…」限られた時間と能力でこなす毎日は悩みと葛藤に埋もれていた。

そんな時、外来の倉庫に布のかかった古いエコーを見つけた。電源を入れるとちゃんと動く。使える装置なのに、ここにはそれを使いこなせる人がいないのがとても残念に思えた。皆ができることをきちんと習得することはもちろん必要だが、周りがやっていないことを学び、身につけることも大切かもしれない、と思った。しかし、周りがやっていないことをやるのは簡単なことではない。自分がやっていることが正しいのか間違っているのか判断できない。東京で開催されるセミナーに何度も足を運び、臨床でとりえず繰り返して使った。2010年に初めて参加した日本整形外科超音波研究会（現在は学会）は、すでに第22回であったことに驚いたが、発表は26演題で運動器エコーの重鎮たちが集まるアットホームな会であった。なんとか集めた6例の手指腱断裂の症例報告を緊張しながら発表したが、唯一の女性だったこともあり、目に留めてもらえたらしい。日本整形外科学会員に占める女性の割合は約6.1%。それは不利なこともあるが、有利なこともあるのだ。それからというものの、運動器エコーの魅力に取り憑かれた。気付けば日本各地にエコー仲間がいて、ヒントやチャンスをくれた。人との繋がりを大切に、地道に歩んでいると、手を差し伸べてくれる人がたくさんいた。こうして運動器エコーをはじめ10年目、2018年に広島大学に「運動器超音波医学」という共同研究講座を開設し、来年には第33回日本整形外科超音波学会を開催させてもらえるまでになった。

正直、私にはできないことがたくさんある。けれどそれが私。仕事も家庭も全てが中途半端で嫌になるが、当教室の教授夫人に「それはすべてバランスをとってやってるってことよ」と励ましてもらった。「置かれた場所で咲きなさい」私が大好きな言葉だ。どんな環境でも人は輝ける。自分が素敵だと思う花を咲かせたらいいのだと思う。人からそれがどう見えようが関係ない。「選んだ道を“正解”にするために努力が必要」は私の信念。努力を積み重ねて自分の道をつくっていこう、と強く思う。そして今は、頑張る人たちを応援

するべく、女性医師のための運動器エコーセミナー（E-Girls Project）を立ち上げて活動している。

私は当時周りがあまり興味のなかった運動器エコーの世界に飛び込んだことで、今ここに文章を書かせてもらえることになった。時に周りがやらないことをやってみることに大きなチャンスが生まれることもある。そして人との繋がりを大切に前を向いて歩いていけば、きっと素敵な未来が待っていることを信じたいと思う。



E-Girls Projectの仲間たち